

令和元年 8 月 2 日

瀬戸市議会議長 長江 秀幸 様

厚生文教委員会委員長 朝井 賢次

厚生文教委員会 行政視察報告書

本委員会は行政視察を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察期間・行程	令和元年 7 月 1 1 日 (木)
2 視察先及び視察項目	京都市東山区 京都市立「東山開晴館」
3 視察者及び随行者等	構成委員 厚生文教委員長 朝井 賢次 副委員長 小澤 勝 委員 松原 大介 新井 亜由美 三宅 聡 石神 栄治 水野 良一 戸田 由久 伊藤 賢二 都市活力委員長 高桑 茂樹 副委員長 浅井 寿美 同行者 学校教育課 大岩 三明 学校教育課 弓削 恵理子 随行者 議会事務局 加藤 都志雄 議会事務局 内藤 寛之
4 視察目的	令和 2 年開校の瀬戸市立にじの丘学園の通学路、通学バスに関すること。 瀬戸市においての今後の学校教育の指針である小中一貫教育についての教育カリキュラムの先進事例。 学校運営においての地域及び P T A との関わりとコミュニティスクールについて。

1 沿革	<p>小規模化が課題となっていた六原小、新道小のPTAを中心として同様の悩みを抱える学校、地域住民が統合を視野にいれ議論を進め、通学範囲や適正規模等も考慮し5小学校2中学校の統合が望ましいと判断され、平成23年4月に開校。</p>
2 学校の教育目標	<p><最高教育理念> 澄みゆく心、かがやく志の育成</p> <p><教育目的> これからの社会をたくましく生き抜く力の育成</p> <p><目指す学校像> ：小中一貫校の特性を最大限に活用し、主体的にカリキュラムマネジメントに取り組む学校 ：これからの社会を支える有為な人材を輩出できる学校</p> <p><目指す教職員像> ：「目指す子ども像」の実現に向けて、自らの立場における明確なビジョンを持ち、主体的に学校経営に参画する教職員 ：愛情と慈しみの心で子どもたちに接し、社会に貢献できる生徒の育成という使命を自覚する教職員</p>
3 具体的な取り組み	<ol style="list-style-type: none"> 1 校時表の改訂による新たな学びの創出 2 MR（学び直しの時間） 3 単元の系統を意識した授業改善 4 自己管理能力の育成 5 総合的な学習の時間の見直し・・・ポートフォリオからキャリアパスポートへ
4 視察課題（1） 通学路、通学バスについて	<p>バス通学と徒歩通学は原則地域毎に決まっている。徒歩通学が困難な地域は原則バス通学であり、通学定期分を全額公費負担。</p> <p>すべてのバス停において十分な待機スペースを確保することは困難なため保護者や地域住民による見守り活動隊や京都市の嘱託職員である専門主事等による登下校・乗車指導により安全の確保を図っている。</p> <p>開校後、新たに保護者からの要望や苦情、トラブルは現在特にはない。</p>

	<p>徒歩通学に関しては開校前に在籍校長と警察等で地域の危険箇所等を確認した。</p> <p>大きな整備はないが、白線の引き直しやカーブミラーの設置、車両の時間規制が行われた。</p> <p>(委員所感より)</p> <p>バス通学は無料で万が一乗り遅れてもフォローが出来る環境であると感じた。「専門主事の先生の同乗」は子どもはもちろん保護者、学校、運転手にとっても大きな安心であると感じた。各方面からの要求があったと推察される。</p> <p>定期券についてはバスにICリーダーも整備されているがICではなく紙の定期券を見せるという方法。児童生徒の乗降時の時短やトラブルを考慮すれば瀬戸市もこの方法を取り入れるべきと感じた。</p> <p>通学に使う市バスは臨時便であり急行で、児童生徒が乗らないバス停には止まらない。瀬戸市の同様の形式が望ましいと考え名鉄バスとの協議が必要だと感じた。</p>
<p>5 視察課題（2） 教育内容について</p>	<p>職員朝礼を廃止し9学年そろっての「朝読書」を運営。 授業開始時刻をそろえて人事交流の促進を図る 授業時間 小学校40分（放課15分） 中学校45分（放課10分）</p> <p>：チャイムは始業時のみで終業時は鳴らさず教師の判断で終業する</p> <p>MR（学び直しの時間）・・・重点取り組み</p> <p>前期過程 習熟度別に4グループで運営 学年職員＋小中一貫加配＋中籍数学科教員＋中籍職員の10名</p> <p>後期過程 自己診断テスト→ひとり学び→学び合い→確認テストのサイクルで主体的に学ぶ。</p> <p>基礎基本の定着のため1，2年生は家庭学習課題、3～6年生には自主学習ノート等の活用課題を課し、量や内容の系統を示す。7～9年生は深い学びのための課題を週末課題として課す。</p> <p>9年生は卒業論文を提出</p>

	<p>(委員所感より)</p> <p>学び直しの時間(MR)については大変共感を得た。瀬戸市においても取り入れを検討していただきたいと感じたが時間の確保等の課題もありと感じた。</p> <p>基本日課表は共感できるが児童の楽しみでもある長放課がなくなるのはどうか。瀬戸市で取り入れた場合分離型の小学校との公平性の問題が出てくると感じた。</p>
<p>6 考察 (所感・本市への提言等)</p>	<p>京都市の特殊地域事情もあると思うが、学力向上、学習環境の改善で一定の成果を挙げていると感じた。</p> <p>印象的だったのが児童生徒たちの明るさで来客の我々に元気で挨拶できる子たちが大勢いた。これはカリキュラム等、きめ細かい現場対応、地元との連携、将来を見据えた改革など校長先生を先頭に強いリーダーシップの賜物であると感じた。</p> <p>開校当初は課題が山積であったが、地域、保護者など多くの支援を受け今日に至ったという感謝の思いが校長先生の話で伝わってきた。まだまだ通過点ではあるが教育に対しての取組み、児童生徒の通学に関する安心安全、キャリア教育など学校運営協議会との連携など、9年間を通して校長先生を中心に教職員全体でチーム開晴館として学校運営に対し、常に進化する姿勢を強く感じる事ができた。</p> <p>不登校児童生徒が約80名(約1割)を超えている現状に驚いた。詳細を把握することで、本市における課題対策に役立つのではと感じた。</p> <p>図書室の図書は7校の図書が持ち寄られ「バーコードの読み替え」を行えばシールの張替え作業も不要とのことで統廃合前の旧小中学校の校名の入った図書が並んでいた。にじの丘学園の図書室を全て新品にするための予算4000万円が計上されているが検討、見直しを行うべきと強く感じた。</p> <p>学校運営協議会の構成メンバーの半分が学校関係者以外ということが地域との連携をスムーズにしていると考えられる。</p>

	<p>開晴館は校長1名体制（義務教育学校ゆえに）であり、現校長はこれが成功の大きな要因であったと分析をしてみえた。にじの丘学園では校長2名体制（施設一体型小中一貫校ゆえに）を予定しているが、これが適正かと検討の必要性を感じた。校長が2名いることで432のステージが絵に描いたもちにならないか、また1～9年生を見通した意思決定が出来るか懸念される。</p>
<p>7 その他 (特記事項等)</p>	<p>特になし</p>